

インターバンクの声（2015年8月12日）

前日には8日続落を阻止できたニューヨーク・ダウだったが、昨日は中国人民元の想定外の切り下げを受けて200ドル以上も値下がりしてしまった。前日の値上げ分をほぼ帳消した格好だ。人民元の実質切り下げとなれば、勢い世界的な株価や商品価格の値下がりにつながり、安全資産としての米国債需要が高まる。月曜日には大幅な上昇を見せた米長期債利回りも、金曜日の水準もしくはそれ以下に再び低下した。しかし、いつもなら安全資産買い、加えて米長期債利回りの低下となれば円買いとなるところだが、昨日はニューヨーク市場の後半に125円台まで円が売られた。昨日の金融市況を伝える各社の情報は、まことしやかな理屈を付けて相場動向の解説をしているが、とりわけ為替市場の値動きの解説に素直に納得させてくれる記事はほとんどない。豪ドルやニュージーランド・ドルの下落は解りやすいが、ドルの対円や対ユーロの動きは誰にとっても解り難い一日だったはずだ。ここで名を上げたい傾向の強いアナリスト諸氏は、盛んに125円のドル上値は重い、いよいよ円買いに向かい始める、日経平均も20,800円で打ち止めのはず、など声高に語り始めているが、どうも凡人にとってはそうした見方に素直に頷けないのが今年の相場だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。